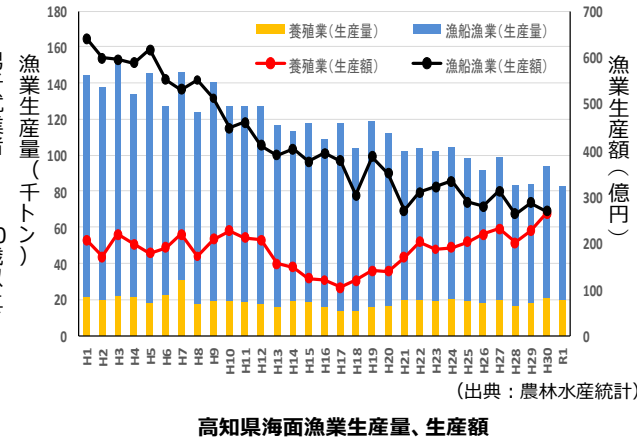
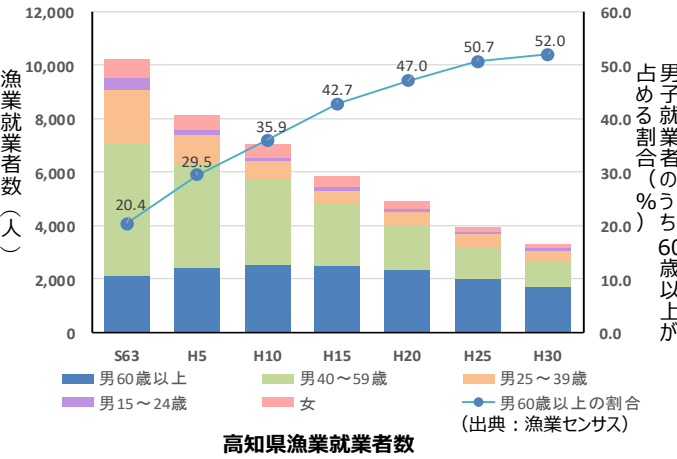


スマート水産業のさらなる推進

現状及び課題

漁業者の減少や高齢化に加え、漁業生産量は減少



漁業者の減少や高齢化に加え、漁獲量の減少が進む中、漁業生産額を確保するとともに、新たな社会構造の変化や働き方改革に対応するためには、

⇒ AIやIoTなどの先端技術を活用し、水産業のデジタル化を図る**スマート水産業の推進が重要**



水産業 × デジタル技術

推進体制

本県では、漁場予測システムの開発や産地市場への自動計量システムの導入を進めるなど、水産業の生産、流通、販売の各段階においてデジタル化を図る「高知マリンイノベーション」を推進

⇒高知マリンイノベーションの取組をさらに加速するため、大学や国の研究機関等の専門家に参画いただく「高知マリンイノベーション運営協議会」を設置 (R2.2月)

高知マリンイノベーション運営協議会

東京大学、早稲田大学、高知大学、高知工科大学、水産研究教育機構 開発調査センター、JAMSTEC、JAFIC、高知県漁業協同組合、高知県IoT推進ラボ研究会

データのオープン化PT

漁船漁業のスマート化PT

養殖業のスマート化PT

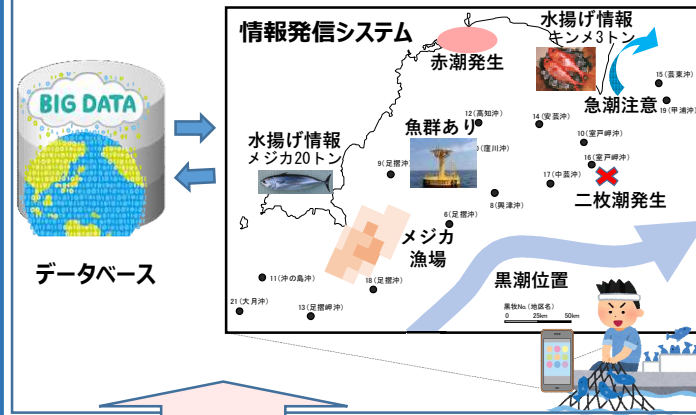
高付加価値化PT

本県水産業の生産性の向上や課題解決のためのプロジェクトを推進

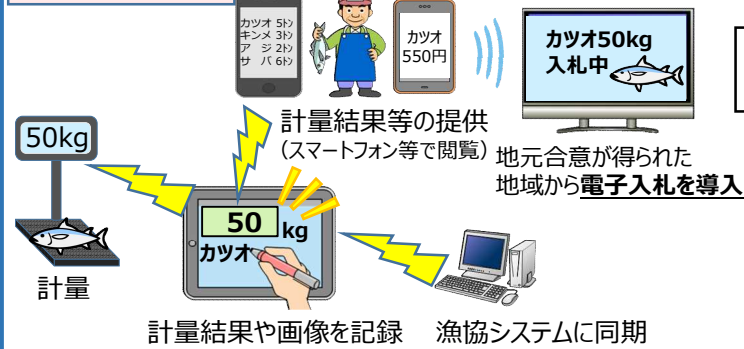
高知マリンイノベーションの取組

データのオープン化

操業の効率化につながる情報等を漁業関係者に発信



産地市場



自動計量システムの導入や電子入札の実施 等

作業の省力化と情報伝達の迅速化が実現

養殖業

赤潮発生予測の開発

養殖業に被害をもたらす赤潮の発生を予測することで被害を軽減

効率的な生産管理を展開 等

生け簀内の魚の尾数や体重を推計できるシステムを開発⇒効率的な生産方法を確立

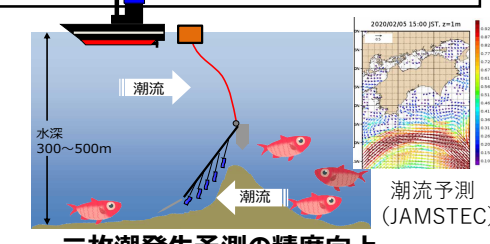
漁船漁業



メジカ漁場予測システムの開発 等

いつ、どこで沢山釣れるかを予測し、魚群探索時間の短縮(燃油削減)や漁獲量の増加に寄与

R2~3年度、スマート水産業推進事業(国)により、メジカ漁獲尾数計数システムを開発



二枚潮発生予測の精度向上

上層と下層の潮の流れの向きや速さが異なり(二枚潮) 操業に支障⇒潮流予測によりコスト削減、漁獲量増加

本県の取組は国が進めるスマート水産業の取組と方向性が一致

- ・地域の取組が円滑に進むよう、必要かつ十分な予算を確保していただきたい
 - ・先進的な技術開発を先導し、その技術や知見を地域に共有・普及していただくことが重要
- ⇒これにより、水産業のスマート化は一段と加速

国が進めるスマート水産業

水産資源の持続的利用と水産業の成長産業化を両立した次世代の水産業の実現を目指すこととしており、様々な先進的な技術開発等を推進



最新の制御プログラムによる自動かつお釣り機の開発やかつお一本釣り漁業等の遠洋海域で操業する漁船への漁場予測情報の提供

- ## 政策提言
- ◎ 操業の効率化や産地市場のスマート化など地域におけるデジタル化の取組が円滑に進むよう、水産業のスマート化に関連する予算の十分な確保を提言します。
 - ◎ 引き続き、国において、先進的な技術開発に先導して取り組むとともに、その技術や知見を地方とも共有し、普及していただくよう提言します。